

とても低いので、公用語としての英語を使える人はIT業界にほとんどいません。そこで必要がないから上達しないのであれば、いっそのこと某社のようにトップダウンで社内の公用語を英語にするという手もあります。すると道具として使わざるを得ないので必ず上達します。日本人の英語レベルは、これから必要に迫られて間違いなく上がるでしょう。

最も短時間で英語を身につけるには、英語を話さないと生きて行けないという状況に自分を追い込むことです。つまり1年ぐらい海外に留学する、しかも回りに日本人のいない所を選ぶという方法です。学生でお金があればこれも可能です。でも社会人だと1年休職して留学できる人はよほど恵まれた人でしょう。こうした思い切った方法を取らなくても、毎日1時間英語に「浸かる」練習をすれば、3年で英語を道具として仕事で使えるようになります。毎日3時間なら1年です。合計で1000時間を超えると英語の山をひとつ超えます。社会人は動機がはっきりしているので、学生より練習に身が入りますし、山を超えるとTOEICの点数も目に見えて上がります。もちろんTOEICの点数はあくまでも目安であり、目標ではありません。

もし留学するなら最低でも3ヶ月、できれば1年ぐらい留学すると、TOEICで使うビジネス英語だけでなく生活英語やその国の文化的背景まで知る事ができて便利です。でも留学はイバラの道なので、国内での英語練習でTOEICの730点程度に到達していないと途中で挫折する可能性があります。英語だけで生活すると相当ストレスが溜まるので、長期留学は誰とでも仲良くできる社交的な性格の人向きです。

最近ではTOEICの点数を履歴書に書いたり、社内の昇進試験の足切りに使ったりするため、社会人にとってTOEICは重要な試験です。また世界中で同じテストをしますので、国が違ってもその点数は通用します。ここが英検と違うところです。筆者はTOEICの860点をハロー・ポイントと呼びます。英語を道具として使いこなすためには、ぜひこのハロー・ポイント超えを目指してほしいと思います。留学しなくてもハロー・ポイントを超えることはできますので、通勤通学などで毎日1時間確実に練習を続けましょう。継続は力となります。練習量が物を言う世界です。